

広報

No. 111

くまがた

昭和57年9月15日

発行・編集 国見町企画課

おもな内容

敬老の日・老人福祉週間……………2～5  
(9月15～21日)

あの人この人……………6  
—松浦孝治さん—

おしらせ……………7

公民館だより……………8～9



'82  
9月

熱戦 —ナイターソフトボール町長杯—

県北中屋外照明設備完成記念の町長杯ソフトボール大会は28チームの中で熱戦が繰り広げられている。果たして栄冠はどのチームに。

(写真は9月7日上野と耕谷チームの試合、結果は9対7で上野チームの勝ち)

# 9月15日～21日 敬老の日・老人福祉週間

女性

村上 やうさん  
(93歳・山根)



長寿両横綱



男性

鴨田 惣太郎さん  
(94歳・内谷西)

九月十五日は「敬老の日」、十五日から二十一日までは「老人福祉週間」です。  
現在、わが国のお年寄り（六十五歳以上）は、一千万人を越え、総人口の約九パーセントを占めています。国見町でも約十三パーセントの千五百七十四人がお年寄りです。  
「人生七十古来稀（まれ）なり」のことは死語になったわが国です。今後ますますお年寄りは増加すると予想されます。このような高齢化社会の到来は、年金、医療、さらに生きがい問題、家族のあり方などまで広く国民全体の課題を提起しています。  
敬老の日には、長寿をお祝いすることも、みなんで高齢者の問題を考えたいものです。



正 行君 (藤田小4年)

(石母田字駒場一八)



阿部アキエさん (66)



みゆきさん (小坂小2年)



佐藤小太郎さん (70)

## わたしの

わたしのおじいちゃんは、ことし七十歳になりますが、とつてもげん気です。  
はたらしきもので、まい日、朝四じにおきて、はたけに行きます。朝ごはんをたべるころかえて来て、こんどはたんぼに行きます。夕ごはんをたべると、おじいちゃんは、いつもちやのまにねむってしまいます。わたしは、(おじいちゃん、つかれているんだなあ。)といつも思います。  
それから、おじいちゃんは、と

## おじいちゃん

つてもやさしい人です。おじいちゃんは、じぶんできいやくだものを作りまふ。おじいちゃんの作るものは、みんなおいしいです。ことしも、わたしの木ずきすいかやうりを作つて、「みゆき、みち子、おいしいからたべろ」といって、きつてくれました。  
やさしいおじいちゃん、これからもげん気でおなが生きしてください。

## ぼくの

ぼくの家のおばあちゃんは、やおやさん。夏のあつ日でも、少しぐらいの雨や嵐の日も、リヤカーに、おじいちゃんを作つた野さいをつけて町へ売りに行く。  
おばあちゃんは、日曜日を待つ

## おばあちゃん

おばあちゃん、えらいと思う。もうすぐ六十七歳。夕方おそくになると、お父さんが途中までむかえに行。帰つてくると、すぐ「おるすばん、ありがとう」と、つかれも見せず笑顔で言う。  
おばあちゃん、これからもがんばつてね。ぼくも手伝うからね。

# 「敬老の日」に



大町南・主婦  
野村チ子ノ

病院の窓口、待合室はいつも老人の患者で混み合っています。こんな風景を見てみると、今押し寄せている高齢化社会の波がひしひしと感じられます。

九月十五日は敬老の日。お年寄りを敬い長寿を祝うことはたいへん結構なことですが、来るべき将来のために壮年も青年も皆んなで老人福祉は今後どうあればよいだろうかと、考える日でもあつて欲しいものです。

年金や医療の問題も現在の制度のままでは破たんするといわれています。国民の一人ひとりが真剣に考え、積極的な提言をしてゆくとときだと思えます。

また、老人たちの生きがいの点でも個人的な趣味だけに求めるのではなく、社会的に活動できる場を与えてゆく施策を考えるべきでしょう。若い世代との交流もつと必要です。さらには、家族のきずなを深めることも大切です。

## 俳句を詠む禅僧

加藤 萬拙さん  
(光明寺・89歳)



光明寺の俳句師は、卒寿を迎え、なおかくやくとしている。現在、町老人会連合会の顧問。趣味の俳句歴も長く、あつかし俳句会の最長老として毎月開かれる句会の出席も欠かさない。その時の時の感情を俳句に託せば心の張り合いにもなるという。俳

句会の熊田一治会長は、「仏さんのような、こだわりのない自然なよい句」だと話している。

「垣根下みづみづさの鳳仙花」

## 野菜作りに精を出す

小林喜一郎さん  
(原 町・85歳)



日焼けした体は、毎日の農作業のため。野菜作りが主な仕事。

つい最近まで耕うん機を動かしていた。専業農家のまだ現当、喜一郎さんは、町村合併当時、旧大枝村換金の副議長で東大枝村問題ではないへんな苦勞を重ねた人だ。農作業の行き帰りは自転

車。以前は上れなかつた坂も今はこいで上る。「体は無理しても使わない」と、体も気持も若い。

「晩しやく二合、タバコ二十本。」

# まだ現役です

孫に手がからなくなつた七十七歳になつて琴を習ひ始めた。「毎年の文化祭の時、国見町宮城会の出演者の中に白髪の年配の婦人がいることに気づかれる人が多い。この人が佐久間芳さんである。

## 琴を楽しむ

佐久間 芳さん  
(第二・78歳)



先生の三坂和子さんは、「若い人の十倍も練習するほど熱心な方で會員の信望も厚い」といっている。体の具合が多少悪くても練習に出掛けるが多少悪くても、「趣味に専念できてしあわせです。」今年も文化祭に向けて意欲も盛んである。

## 店の来客もてなし

古川 ナヨさん  
(大町北・79歳)



家業の魚屋さんは朝から晩まで忙がしい商売だ。ナヨさんは、電話の応対から来客の接待まで一手に引き受け、古川商店の現役の働き手である。病院通いもめつたにないほど健康な毎日を送っている。

テレビもニュースからスポーツ、映画まで幅広く見ているので世の中の動きにも明るい。

健康の秘けつといったものは特にないそうだが、お客さんとお茶のみ話が活力の源かもしれない。



長寿おめでとうございます (85歳以上の方)



部落名		氏名	年齢
内谷	西	嶋田 惣太郎	九七
町	東	斎藤 ツネ	
石母田	東	佐藤 ヨテ	
小	坂	早田 富	八六
太田	川	熊坂 ヤイ	
板	橋	野村 モツ	
第十二	高	梨 トヨ	
石母田	東	佐藤 吉郎	
山崎	館	吉田 清七	
山崎	小	館 吉田 栄作	
徳江	北	八巻 亀太郎	
大木	戸	松浦 繁一郎	八七
大町	南	佐久間 うめよ	
山崎	北	黒田 ヤス	
第三	吉	田 ミサ	
大木	戸	村上 デン	
駅	前	前 泰 勇	
前	田	安藤 末吉	
内谷	東	熊坂 栄	
第一	一	佐久間 佐七	
第一	八	佐野 庄八	
光明	寺	佐野 竹次	
川	内	岩城 久吉	八六
駅	前	前 泰 勇	
大町	北	菅野 キヨ	
宮町	南	渡辺 スイ	
石母田	原	松浦 ナツ	
太田	川	佐藤 トモ	
内谷	東	菅野 キヨ	
第三	武	田 コフ	
貝	田	大沼 ノシ	
高	城	長谷川 キヌ	
中	部	菊池 ふよ	
北	部	佐藤 フジ	
川	内	鈴木 キセ	
川	内	太田 マス	八六
石母田	原	松浦 亀右エ門	
山崎	館	吉田 弥吉	
泉	田	中目 黒久太郎	
第十一	野	田 善美	
貝	田	小林 千代次	
原	町	小 直六	
川	内	鈴木 直六	
本	町	紺野 しほ	
本	町	本田 よう	
太田	川	一條 ヨシ	八五
耕	谷	岩 潤 トリ	
泉	田	下 黒田 ヨシノ	
泉	田	下 阿部 みさを	
第一	一	佐久間 シン	
第一	一	遠藤 チヨ	
第二	二	佐久間 ナヨ	
第二	二	佐久間 エツマ	
第四	四	吉田 シツマ	
第七	七	佐藤 トキハ	
第九	九	村上 ユリ	
光明	寺	遠藤 フタ	
北	部	佐藤 トヨ	



木陰で仲よく休憩

社寺をそうじ

内谷寿会で子供たちと

滝川をきれいに

徳江北部長寿会ほか

奉仕作業

八月九日、内谷寿会（熊坂善七会長）では地区のお年寄りと子供との交流をはかろうと、神社やお寺などを一緒に清掃した。

午前八時から二時間、草刈りとゴミの片付けに汗を流した後、自に院に集合、茶話会を開き、文化財の大切さや内谷の歴史などを話し合った。

この共同奉仕作業は、昨年からはじめたもので、一緒に作業で老人と子供の触れ合いを高めるとともに子供たちに奉仕の心を育てるという一石二鳥の効果を得ている。

熊坂会長は「両方から好評なので毎年続けたい」と語っている。

倒す大作業となったが、きれいな河川に生まれ変わり、参加者一同、涼風のようなさわやかさを味わっていた。皆さん、どうもご苦労さまでした。

八月二十一日、徳江北部長寿会（佐藤新七会長）では、森山老人クラブの第四地区の人たちの応援を得て滝川の河川清掃奉仕作業をした。参加者は二十五人ほど。

壇の越橋から清川との合流点までほぼ一キロにわたり、両岸の樹木の刈り払いで炎天下の午前中汗を流した。

河川改修後は初めてとあって、クズのもだ、ネムの木々、根元三十七センチもあるシンジュの木を切り



まるでジャングルの刈り払い

▶待っているお年寄りを思うとベタルにも力が



▶清潔な環境がお年寄りには大切



## カメラルポ



▲訪問の前に、頼まれた買い物を

## 家庭奉仕員の一日

町の家庭奉仕員、小幡コトさんがお世話しているお年寄りは現在七人いる。寝たきりの人も一人暮らしの人もいて週に二〜三回の訪問を心待ちにしている人ばかりだ。

小幡さんの仕事は、そうじ、洗たく、身体のお世話、さらには買い物、野菜作りの手伝いまで、それぞれのお年寄りの環境に合わせた身辺のお世話である。「お年寄りとともに生きる」ことを信条にして仕事を続けている小幡さんは、お年寄りの心の支えであり、なくてはならない人だ。

写真は、九月七日、徳江の佐野庄八さん（八六）を訪問したときの一コマである。

▶相手がたとい無言でも、やさしいことは掛けながら身辺のお世話をしてあげると心が通じます。



## 故八巻さんに叙勲

六月二十九日に亡くなられた、前町議会議員、八巻正雄さん(大町南一六三番)に、勲六等単光旭日章が授与され、八月十三日ご遺族に伝達されました。



昭和四十三年から十三年間におたつて町議会議員として活躍されたの間、町議会建設委員長、議会副議長、公立藤田病院議会議員の要職を歴任されました。町の道路行政に果たされた重要な役割を高く評価し、東北縦貫自動車道の開通に伴う国見インターチェンジ付替異道特別対策委員と

して、交通網の充実をはかったことは周知の通りです。

また、東北新幹線藤王トンネル堀さくによって生じた生活用水、農業用水のかつ水対策委員としても活躍され、従来以上の水利の便を図られました。

公立藤田病院議員としては、名実ともに東北の綜合病院の基礎を築き上げ、辺地の医療施設の充実に貢献されました。

今回の叙勲は、このような町の主要事業の企画実行、町自治の発展に寄与された賜ですが、病気で亡くなられたことは非常に残念なことであります。心からご冥福をお祈りいたします。

## 佐久間岩吉さんに感謝状



八月四日、佐久間岩吉さん(宮町北一七七番)に法務大臣感謝状が佐藤町長から伝達されました。これは、昭和三十三年から今年の七月まで二十四年間の長い間、保護司として地域住民の福祉の向上に盡された業績に対しておこられたものです。

## あの人この人

59

### ＝剣道一家＝

松浦孝治さん

西大技字築館39 (50歳)



茶の間には表彰状やトロフィーがいっぱい、剣道一家、松浦孝治さんのお宅である。日焼けの、がっちりしたご主人だが、温厚な人柄は家庭の雰囲気にも表れ、和やかで明るい一家だ。

孝治さんは四段、長男で現在、県警機動隊に勤める淳さん(三三)も四段、福女二年の長女、淳子さん(二七)は二段、末っ子で大校小六年

の裕子さん(二二)は少年初段と、剣道一家の名に恥しない剣士ぞろい。今年の三月、裕子さんが小学生では破格の初段に昇進したとき新聞に紹介された話題になった。

松浦さんは若くして初段を取ったが、しばらく遠ざかっていた。再び始めるようになったのは、小学生だった長男がおとなしかったので剣道で鍛えようと思いついたから。指導者の佐藤徳造さん(現在、町剣道スポーツ少年団長)にお願いで行ったらしい。「それなら他人任せでなく親も一緒にやるのがいい」とアドバイスを受けました。

その効果は大きかった。長男の淳さんはその特技を現在職に生かしているし、本人も四段に昇進した。長女も二女も今、その後を追っている。

「剣道の魅力は、いつまでも現役にやれることです。そのため、年少者から高齢者まで一緒に汗を流せる楽しみがあります。親子でやれば、共通の話題も生まれ、断絶なんてありません。子育てにもたいへん役立っています。」

練習には、家の花弁(き)販売業の忙しさを縫って、大校小体育館で週二回、町民体育館で週一回、親子で参加している。ほとんど欠かさない練習熱心さだ。「人よりうまくするには、一にも二にも練習です。うちの子は決して運動能力が優れているわけがありません。他人が一歩歩くときは三歩歩くと教えています」。恩師の佐藤徳造さんは「努力家でもありますが、剣道を人生に生かしている人格者です」と松浦さんを評している。

最近、親子で剣道を始める人が増えている。練習日の町民体育館には、四・五組の姿が見られる。「姿勢もよくなり、反射神経も磨かれます。途切れさせないためには親も一緒に」と勧めている。

松浦さん家族の話題はもつぱら剣道のこと。「話に加われなくて」とは奥さんの弁だが、たくましい子供の成長には目を細めている。たばこはすわず、酒も気の向いたときだけという松浦さんだが「練習上りのビールはうまい」とも。他に山菜、きのこ取りの趣味。



### 予約受付中です

― 県民手帳、県のすがた ―

町企画課では、県民手帳などの昭和五十八年版の予約申込み書を部退回覧しています。内容は次のとおりです。ぜひ一家に一冊お求めください。

◆ 県民手帳 (統計資料付き) 三百五十円

◆ 県のすがた (最近地図) 統計グラフ七色刷) 三百五十円

◆ 県勢要覧 (県勢がひとめでわかる資料) 千三百円



### 違反建築を

### なくしましょう

十月十一日から十月十七日までの一週間、建設省、福島県、市町

村と、関係団体の協力により、違反建築防止週間を実施します。建築基準法の目的、内容について理解を深めていただくとともに良好な市街地の環境の形成と建築物の安全性の確保に努めようとするものです。  
この期間中、建築活動の盛んな地域を重点に一斉公開パトロールを行います。



### 募集

### 県立石川技術専門学校

● 募集科目 人員

建築科 三〇名 養成三〇名

左官科 三〇名 養成二〇名

● 応募資格 転職者一〇名

● 応募資格 中学校卒業者(卒業見込の者、および転職者)

● 入学願書受付 昭和五十七年十一月一日(月)

● 入学願書締切 昭和五十七年十一月二十五日(木)

● 選考試験日時および場所 昭和五十七年十一月二十六日午前九時三〇分

第一会場 本校  
第二会場 郡山公共職業安定所  
試験科目 国語・数学・社会(面接)

● 合格発表 昭和五十七年十一月二十七日(土)

● 入学願書提出先 本校または最寄りの公共職業安定所

● 転職者募集の受け付けは昭和五十八年三月末日まで随時行ないます。詳しくは本校(☎〇二四七二一六一三三三三)または最寄りの公共職業安定所にお問い合わせください。

### 台風シーズンです!

強風やアンテナや看板などが飛ばされて、ケガをしたり電線が切れたりする場合があります。台風に備えて、しっかり点検しておきましょう。切れた電線にさわると危険です。



東北電力

### 心配ごと相談日

場所: 役場二階相談室(東側入口からお入り下さい)  
時間: 9時~12時  
こまったことや、相談ごとがありましたら、お気軽にご相談下さい。秘密は絶対に守ります。  
【相談員】

9月25日(土) 吉川 弥吉、玉手マルヨ  
10月5日(火) 桜沢 正、橋安藤  
10月15日(金) 鈴木 正雄、安藤 正

### 特設無料人権相談

○期日 十月六日 午前10時~午後3時まで  
○場所 国見町民福祉センター  
○相談員 法務局職員  
国見町人権相談員

### 行政相談週間

期間 十月十七日から十月二十三日まで  
テーマ 親切、ていねい、迅速な窓口をめざして  
合同行政相談所の開設  
○十月十九日(火) 午前10時から午後三時 福島市、山田百貨店三階(管理センター大ホール)  
※一日合同行政相談所長に福島県商工会議所連合会会長の山田英二氏を委嘱して行ないます。

### こよみ

9月 長月 (ながつき)	10月 神無月 (かんなづき)
20日 彼岸入り 動物愛護週間 航空記念日	1日 法の日、共同募金 旧十五夜 労働衛生週間
23日 秋分の日	3日 満月、国際文通週間
24日 結核予防週間	9日 寒露
26日 彼岸明け	14日 鉄道記念日

### 今月の納税

固定資産税 第三期





国見町公民館  
電話 (公) 2676  
(有) 4156

### 夜間照明のもと 町長杯ソフト ボール大会

県北中学校屋外運動場照明設備完成記念行事として、国見町長杯争奪ソフトボール大会が八月二十四日午後六時二十分から開会されました。  
佐藤町長のあいさつ、菊地政治



ナイターでハッスル♪

町議会議長の祝辞があり、森西スポーツチーム代表広居重夫選手の力強い選手宣誓があり照灯式を行ないました。  
町長の始球式の後、記念すべき第一戦、高城対徳江北の試合が行なわれました。  
大会には、二十八チームの参加申し込みがあり、一日二試合ずつ行なわれます。  
なお、同施設の一般貸与については、この大会の終了後になります。

### 昭和五十七年度 町民学校開設のご案内

#### ◆第一コース(月曜日)

ゲートボール教室  
内容 「ゲートボールで体力づくり」  
講師 桑折町公民館社会教育指導員佐藤好久氏  
定員 五十名  
時間 午後一時三十分～三時三十分

回数 四回  
期日 九月二十七日から毎週月曜日  
会場 公民館前広場  
※運動できる服装

#### ◆第二コース(火曜日)

ジャズダンス教室  
内容 「だれでも気軽に」  
講師 福島すみれバレエ学園 佐藤モダン&ジャズダンススタジオ  
定員 三十名 佐藤多賀子氏  
時間 午後七時三十分～九時二十分  
回数 四回  
期日 十月五日から毎週火曜日

#### ◆第三コース(水曜日)

会場 公民館講堂  
※運動できる服装  
現代ヨガ教室  
内容 「美容・健康のための現代ヨガ」  
講師 国見町 芳賀史郎氏  
定員 三十名  
時間 午後七時三十分～九時二十分  
回数 四回  
期日 十月二十七日から毎週水曜日  
会場 公民館老人こども室  
※体操のできる服装

#### ◆第四コース(木曜日)

藤工芸教室  
内容 「藤工芸で室内を明るく」  
講師 真木稚子ラタンニアートスクール福島教室  
主宰 半沢敬子氏  
定員 三十名  
時間 午後一時三十分～四時  
回数 四回  
期日 十月二十八日から毎週木曜日  
会場 老人こども室  
※申込みは九月十七日まで公民館に。  
定員になり次第締切ります。

### 文芸欄 あつかし俳句会

一段と声はり上げて盆踊り  
知らぬ間に踊りの中に居たりけり  
晩夏光卒姆と中なりて忘れけり  
日焼けして孫は東京へ帰りけり  
大櫓下に子を置き輝しぐれ  
明日を知らぬ今日を喜ぶ露の身  
草刈りて蒔きというを見つけたり  
その度に歎声あがり大花火  
亡母の背よ亡父の肩よと慕洗ふ

### 短歌

奥山 甲二  
藤田 勝衛  
加藤 痴仏  
須田 泰山  
佐久間山月  
奥山 雨田  
高橋 仙子  
赤間はる子  
森田 栄子  
斎藤 義吉

### 国見町少年ソフト ボール大会終る

成績は次のとおり  
優勝 森江野Aチーム  
準優勝 大枝Aチーム  
第三位 大町北・耕谷チーム



セーフ♪

## 少年仲間づくり教室

### 野外活動

8月6日～8日



▲みんなで作ったカレーの味は？

さあテント張りだ！  
二晩せわになるよ！

▶上手でしょう



▼霊山へハイキング



▶想い出をスケッチに



### 図書寄贈

藤田錦町齋藤正美さんから  
この生命ある限り、外三冊  
石母田菊池利雄さんから  
漫画日本史①③  
福島信用金庫国見支店から

### 文化団体紹介

#### 国見町吟詠会

私達国見吟詠会は、社団法人日本詩吟学院岳風会認可福島岳風会信達支部国見教場として、昭和三十八年五月十二日、当時県警察署警察署の指導で青少年の不良化防止を「スローガン」にして六名の会員が発足した。それから十九年を迎え現在会員三十四名で、毎週木曜日午後七時から公民館において、漢詩、立詩、和歌、俳句などの研究ならびに朗吟に、腹の底から一杯の声を出して心ゆくまで練習に頑張っています。

詩吟というと、一般の人達は難しいものと思っている様ですが、決して難かしいものではありません。ただ腹の底から声を出すことによって健康にもつながり詩も自然と上手になってくるのです。

上手下手は、別として人の前で

天皇写真集

ありがとうございました。

#### ◆秋の夜長は読書で！！

公民館図書室には新刊書もいっぱいあります。気軽にどうぞ！

大きな声を出せる様になるだけで有段の価値があると思われれます。県内には、多ぜい吟友があり各教場の結成大会や、方部、また県連合会の大会など多くの吟友達と胸襟を開いて交歓しています。五月、十一月と二回の昇段試験によって、日常練習の成果が試される訳でございます。

町文化祭には日頃の練習の成果を胸を張って披露出来る楽しみもあります。

昇段試験後の反省会、忘年会など「くつろげる」催しなども計画されています。

若い人達にもっと理解していただき健康につながる詩を吟ずる吟詠会にご入会していただき度々と思えます。

和氣あいあいのうちに練習しているさま正に長生き出来そうです。木曜日の夜、公民館第一会議室をのぞいてみてください。

会費は一月五百円です。

国見吟詠会 会長 曳地一

# 戸籍の窓口

(8月受付分)

## 出生おめでとうございませ

子の名	保護者	部落
正健	大橋 恒治	前山
敦子	太田 繁晴	山北
智裕	一子 佐藤	宮北
絵理子	仲野 道夫	江西北
大利	市川 厚治	山内西
光	鈴木 博光	内中
寛	徳樹 高橋	田中
まな	阿部 隆夫	東
美佳	菊地 利夫	第十

## ご結婚おめでとうございませ

氏名	部落(前住所)
浅野 勇次	小坂
寺島 ミサヲ	福島

## おくやみ申し上げませ

氏名	年齢	部落
上見 昌	53	第八町
北見 次郎	53	北町
吉田 房七	84	第九宮北
阿井 田部 砂	93	第九宮北
阿井 田部 砂	0	第九宮北
阿井 田部 砂	1	第九宮北

# 人口と世帯

9月1日現在(前月比) 8月中のうごき

男	5,892人(+4)	転入	14人
女	6,234人(-2)	転出	19人
計	12,126人(+2)	出生	13人
世帯数	2,857戸(-1)	死亡	6人

町食生活改善協議会では、八月六日、藤田小学校で「母と子の料理教室」を開いた。

当日参加したのは十五組の母子。もちろん女の子ばかりでなく張り切りボーイもいた。保原保健所の酒井栄養士の指導で「お好みロールパン」、「アコーディオンサラダ」、「ハンバークステーキ」などの多彩なメニューをこなし、味

# わだい



料理を楽しむも



たまねぎ刻みもなんのその

もなかなかいけるものだった。

会長の黒田キヨさん(駅前)は「インスタント食品を離れ、母の手作りの味を子供に知ってもらいたい。栄養も万点です。なによりも、一緒に料理することで親子のつながりも深まります」といつて

# クマを射止める

有害鳥獣駆除隊(佐久間友吉隊長)は、去る八月二十二日午前七時ころ、石母田園石地内の桃園で体重六十五キログラムのクマを射止めた。

このクマは四歳ぐらいの雄クマで、八月月上旬に一度姿を見かけた人があり、隊では警戒をしていた。

その後クマを見かけた人もなく、地区の人たちも今年は安心して桃

いる。

皆さんの家庭でも親子で(ぜひ父親も)料理を楽しんでほしい。おいしい料理には微妙な感覚が要求され、頭の働かいといわれています。



クマを囲んで隊員一同

の収穫ができるかと喜んでいたところ、二十二日、朝もやの中にうごめくクマを発見しました。

連絡員からの知らせに急いでかけた隊員二十人が、霧に煙る桃畑を取り囲み見事に仕留めたものです。昨年、昨々年とクマを射

止めた佐久間隊長は、「クマの行動範囲は広く最初に姿を見てから二週間も姿を見せないということば、多分小原方面の桃でも食べていたんだらうと思ひます。間もなく姿を見せたらうと警戒していた矢先のことだったので、準備はもちろんチームワークもよく、幸運でした」と笑っていました。

# 編集日記

〇そちこちから、松茸のうわさが聞かれる今日このごろである。台風一過の秋空に、と喜んでばかりいられない。行方の気になった十八号で、町にかなりの被害が出た。

〇以前は、いまごろになると囲炉裏を囲んで、お年寄りたちの思ひ出話・自慢話などが聞かれ、楽しい一時を過ごしたこともあったが、近頃は核家族とかやからで、みんな個室にとどまらなくなり、対話というものが更にない。

〇お年寄りのお株は、今から約二十余年前に、エレクトロニクス革命をもたらしたテレビという器械によって変られ、うつうつとした気分を病院という社交場でうつ憤を晴らしている。

〇人は群れて生きるのが本来の姿だという。やがて私たちも老いる。そのときになって、果たして孤独を楽しむことができるだろうか。

発行・編集 国見町企画課 福島県伊達郡国見町大字藤田字一丁田二ノノ1 藤田(〇二四五八五二二二一代)